

# Attitudes and Skills that University Students Should Learn

Yumiko Yoshimura

This paper aims to list and analyze the problems with learning attitudes and skills demonstrated by students at Toyohashi University of Technology. It is hoped that the results from this study will help form the basis for reform of the academic system and curriculum. The participants in this study were students taking my course, *Japanese Letters and Characters and its Writing System*, which was taught from 8:30 to 9:45 in the morning on Wednesday of autumn term (September to November) in the 2003 academic year. The method of data collection for this study included general class observations and an examination of comments that were written by the participants at the end of each class session.

The attitudes and the skills which students should learn are as follows:

1. Things that they should have learned in primary and secondary education.
  - a. Be on time.
  - b. Stay in your seat during class.
  - c. Keep silent in class.
  - d. Concentrate in class.
  - e. Do not sleep in class.
  - f. Do not do assignments for other courses in class.
2. Things that they should learn as conventions of tertiary education.
  - a. Do not complete assignments with a pencil.

- b. Format your assignments as specified.
  - c. Complete your assignments using a written style; i.e. “da/dearu tai”.
  - d. Do not forget to write your year, major, student ID, name and other data as specified.
  - e. Hand in your assignments by the specified deadline.
3. Things that they should learn as part of lifelong education.
- a. Understand that expanding knowledge liberates oneself from prejudices.
  - b. Learn by yourself outside class.
  - c. Do not register for too many subjects so that you are able to spend enough time for preparation and review of classes.
  - d. Bring your dictionaries with you at all times.

The academic system should also change in order to improve our education. The introduction of the following two systems would be a remedy for many current problems.

- 1. Limit the number of subjects or credits that can be registered for in a term or year.
- 2. State in the Academic Guidebook that three types of courses require different hours of outside study.
- 3. Record failures on the grade sheet and count them for the grade point average.

# 大学生に習得してほしい学習態度・学習技能

吉村弓子

## 1. 大学生らしい大学生を育てたい

豊橋技術科学大学の授業時間は、携帯電話の着信音が鳴ることもなく、私語で教師の声がかき消されることもない。今時の大学としては恐らく平均以上のまじめな雰囲気といえよう。しかしながら、大学生を相手にこのようなことまで注意しなければならないのかと、情けなくなることがあるのも事実である。遅刻をしないこと、提出物は鉛筆で書かないこと、レポートは「です・ます体」で書かないこと等、どの分野の学習をする際にも基本的なことに違いない。各科目の担当者が、あきらめずに真剣に指導しなければならないのは当然である。しかし、大学としては、各教師の努力に任せるだけでは不十分なのではないか。カリキュラム全体を眺め、いつ、どの科目で何を指導すれば全学生が大学生としての学習の態度や技能を習得できるのかという視点で、設計する必要があるだろう。3年次編入学生が1年次入学生の3.75倍を占める<sup>1)</sup> 豊橋技術科学大学の特殊な状況も、考慮に入れなければならない。また、履修システムそのものにも改善の余地があるかもしれない。

本稿は、このような学習態度・学習技能の習得を目的としたカリキュラム・履修システム改善の基礎資料として、習得してほしい事項を整理分析することを目的としている。考察の対象とした授業は、2003年度2学期（9月～11月）水曜1限（08：30-09：45）に吉村が担当した「総合科目VI（B）：日本の文字と表記」である。方法としては、筆者の観察した受講態度と、授業で学生に毎回書いてもらったコメントとを総合的に分析した<sup>2)</sup>。その結果、以下の3点に分類し、3～5節で詳しく述べていきたい。

- 1) 大学入学前に身につけているはずの学習態度・学習技能
- 2) 大学に入ってからすぐに学んでほしい学習態度・学習技能
- 3) 大学教育・教養教育の趣旨を理解してほしい学習態度・学習技能

## 2. 受講登録者はなんと198人

この授業を考察対象としたのは、最新の授業だからではない。受講者が非常に多く、学習態度・学習技能の問題が顕著だったからである。

これまで筆者が担当した総合科目の授業は、ディスカッションを中心とすることをシラバスに示していた。そのため、受講者に積極的な授業参加が求められることは自明であった。また、受講者数も30人程度で、教師の目が行き届いた。提出物にはコメントを書いて返却したので、問題があっても次回の提出時には修正されていた。

それに対して2003年度は、もともとディスカッション形式にしていなかった。また、受講登録者がなぜか198人もあった。実際に160人～170人程度の出席があったので、質疑応答をすることすら困難となった。一方的な講義を避けるために、毎回の授業の終わりに「今日の授業で一番大事なこと」と「質問・コメント」を自由記述形式で書いて提出してもらい、次回の授業にフィードバックする工夫をした。

なお、総合科目は一般基礎科目のいわゆる教養科目として開講されている。その理念は『履修要覧』（2003）には以下のように示してある。

本学の教育課程は、一般基礎科目と専門科目を並行実施する「くさび形」になっています。それは専門教育と一般基礎教育が一体となることによって「実践的創造的な能力を備えた指導的技術者・研究者の育成」という本学の教育目的が達成できると考えているからです。それは専門の領域において優れているだけでなく、「人間性の開花、自然との共生、国際協調的な社会の実現」に技術者・工学者として貢献できる人材ということです。

一般基礎科目は自然科学の分野と人文・社会の分野に大別できます。前者は工学の基礎となる科目で、1, 2年次の学生を対象としています。後者は豊かな素養と人間的な感性を身に付け、それによって人間の社会的営みの中における工学の位置づけ、役割を的確に認識し、柔軟で人間的な発想をすることのできる人材の育成をめざしています。それには「透徹したものを見る目、繊細で温かみのある感性、多元的な思考能力、グローバルな視野」を備えていなければなりません。それは技術／工学の内部では解答の得られない課題であり、まさに一般基礎科目が担うところであります。

総合科目VIは言語・社会系の内容で、毎年度4科目開講される。卒業要件としては、3年次1学期から4年次2学期までの間に1学期間1科目履修しなければならない。つまり、選択必修科目である。科目間の人数調整は行わないので、受講者数は偏りがある。偏りの要因は、開講される学期・時間帯、担当教師、授業内容、授業形式、評価方法、先輩からの情報等が考えられる。しかし、筆者が担当した総合科目で毎年観察しアンケート調査もしてみたが、明らかな傾向は見つけられなかった。

### 3. 授業中に寝るのは自由なのか

この節では、大学入学前に身につけているはずの学習態度について詳しく見ていくことにする。日本では小学校に入ったら、すぐに次のようなことを学ぶのが一般的である。

- 1) 決められた時間までに登校する
- 2) 授業が始まる前に席に着く
- 3) 授業中にトイレに行かない（休み時間にすませておく）
- 4) 授業中は席を離れてうろうろしない
- 5) 授業中はおしゃべりをしない
- 6) 先生の話集中して聞く
- 7) 発言したいときは手を挙げて指名されるのを待つ
- 8) 発言するときは皆に聞こえるように大きな声で言う

これは集団で学習するための約束事である。昨今はこれが習得できずに授業が成立しない問題があり、学級崩壊と呼ばれている。その原因は、親の躰が悪いからだとか、教師の指導力が低下しているからだとか、いや学習障害という病気なのだとか論じられている。その影響が大学にまで及んでいるという話も聞くが、豊橋技術科学大学の学生の大半はそのような問題はない。しかし、一部の学生は遅刻しても平然と教室に入ってきたり、授業中に悠然とトイレに行き来したりする。もちろん、人間たまには寝過ぎることもあれば、バスや電車が遅れることもあるだろう。授業中に急に体調が悪くなることもあるかもしれない。だが、以前の学生は「すみません、ちょっと」と表情や姿勢で教師に訴え、教師も「いいわよ」と無言でアイコンタクトを交わしていたものである。あの美しいルールはいつの間にか消えてしまった。実は、学生の中にも不快に思っている人がいて、「遅刻した学生が、配布プリントの残部をだらしなく教卓に取りに行くのが、目障りです」と書いたコメントがあった。「配布プリントはとてもわかりやすかったのですが、聞き逃してわからなくなることがあるので、もっと詳しく書いてくれると嬉しいです」というコメントには、なぜ聞き逃したのか質問したい。聞き逃さないよう集中して聞いてほしい。もし、筆者の話すことがすべてプリントに書いてあったら、学生はノートも取らず真剣に聞こうともしないだろう。そのようなことも考慮に入れて、固有名詞、年号、具体例など聞き取りにくい、板書が必要な箇所のみ書き出してあるのである。

さて、中高生になると、反抗期のせいか受験勉強の悪影響か、以下のような行動が授業中に起こるようになる。

- 9) 机に伏して熟睡する
- 10) 非受験科目の授業中に受験科目の勉強（いわゆる内職）をする

中学・高校では厳しく注意する教師もないではないが、私語等に比べれば他の生徒にかかる迷惑が小さいため何も言わない教師も多い。その習慣を大学の授業に持ち込む学生も少なくない。大学でもいわば黙認状態のようで、留学生には母国では考えられないと響感を買っている。だが、

いくら静かに寝ているといっても、真剣に勉強しようと思っている学生と熱意を持って教えようとしている教師にとっては士気が下がる。そのことを筆者が授業で話したところ、「授業中に寝るのは悪いことだと初めて知った」というコメントがあった<sup>3)</sup>。また、プリントを配布する際に気づいたが、教室の後ろの方の席では他科目の宿題をしていた。着席せずに最後列の後ろの床にすわって、つまり最後列の学生の陰に隠れて、一心不乱にレポートを作成している学生までいた。

要するに、一部の大学生は勉強するために授業に出席しているのではなく、単位を取るために来ているわけである。朝8時半の授業に出席して初めから寝ているくらいなら家で寝ていた方がいい、と筆者なら考える。しかし、出席とコメントが授業評価の多くを占める授業に出て寝ていれば、うまくすると単位が取れるかもしれない、と学生は考えるようだ。教室で睡眠時間も確保できる。あるいは、他の授業のレポートを友達に助けてもらいながら完成することもできる。したがって、上に述べたような受講態度は単位を取るという目的にかなったものとも言える。しかし、授業を受けるにはそれなりのマナーがあるのではないか。大学の役割は知識を授けるだけではなく、責任と品格をもった市民・社会人を育成することにもあると主張したい。

#### 4. 鉛筆で書いた提出物は受理しない

高校までとは違って、大学での提出物は鉛筆で書いてはいけないという慣習がある。試験の答えは鉛筆で良いようである。このあたりは時代や国によって異なるらしい。昔はノートもペンでとったものだと聞いたことがある。また、1980年代初頭に筆者が米国に留学したときは、試験の答えもペンで書かなければならず、消しゴムで消せるボールペンが人気だった。英国では中学生からノートをとるのもペンとなり、大学生になって鉛筆やシャープペンシルを持っている人はいないという。

提出物を読む教師の側から言えば、鉛筆の特に筆圧の弱い文字を大量に読むのは目が痛くてたまらない。ところが、何も言わないと大半の学生は鉛筆で書いてしまう。コメント用紙に記入する前に毎回注意しても、鉛筆で書く学生が必ずいる。「ペンを持ってくるのを忘れました」と付記した学生もある。

宿題に関しては提出物の保管と成績の管理の便宜を考慮し、予め下記のように注意事項をまとめて明記し配布した。

##### 宿題に関する注意

宿題は全部で4回。それぞれ提出日が決まっているので、気をつけること。

用紙はA4サイズ縦置き1枚をつかうこと。下に余白が多くてもかまわない。

横書き。

ワープロ書き歓迎。フォーマット：自由。フォントサイズ：12ポイント。

手書きの場合は、レポート用紙（罫線の入ったもの）に丁寧にペン書き。

宿題③は、別紙に記入、またはワープロ書きしたものを貼り付けること。

以下のような書式で、科目名、宿題の番号とテーマ（宿題内容プリントの太字部分）、提出日（「2003年」を使用すること）、学年、所属課程、学籍番号、氏名を記載すること。設問は書かないで、1) 2) など番号だけでよい。

総合科目VI (B)：日本の文字と表記

宿題①「名前の表記を説明する」

2003年9月24日

3年9系 011412

吉村 弓子

1) 名前：吉村弓子

「よしむら」は、普通の「キチ(吉)」と「むら(村)」です。「ゆみこ」は、「ゆみや(弓矢)」の「ゆみ(弓)」と「こども(子供)」の「こ(子)」です。

2) 由美子：「ゆみこ」は、この表記が多いから。

弘子：「弓」を手書きするときに、左の部分が同じ「弘」を無意識に書いてしまったから。

それにもかかわらず、提出日を守れないもの、B5サイズの内紙を使ったもの、鉛筆で書いたもの、書式が違うもの、科目名を間違っているもの、学年や所属課程を書いていないものなどがあつた。第1回の宿題を採点した後の授業で、なぜこのように定めているか事情も説明しながら注意した。ところが、第2回以後の宿題でもあまり修正されていなかった。その原因は、1つには授業中に寝ていたり他の宿題をしていて、筆者の言うことを聞いていなかったことが考えられる。いま1つは、宿題を読む教師のことなど全く想像力が及ばないということが指摘できよう。野田・森口(2003)は、読む人が理解しやすいことを主眼とした文章指南を展開し、学生から教師へのメール、同窓生同士のメール、レストランのメニュー、論文のレジюмеなどを取り上げている。前節で述べた受講態度にしても、周囲への配慮を欠くという共通点を見出すことができる。「鉛筆で書いた提出物は受理しない」と宣言しなければ正さないようでは、寂しすぎるではないか。

## 5. 教養教育で先入観から解放される

第2節で引用した一般科目の理念は、新年度のガイダンスでも口頭で説明をしている。筆者の授業の初回でも、大学の勉強の仕方と教養科目の趣旨を次のように強調した。大学の勉強は、教わったことを暗記すればよいというものではない。興味をもったことや疑問に思ったことを、自分で調べてみるのが重要である。そのときに参照する図書も配付資料に示しておいた。教養科目 (liberal arts) の意義は、知識を得ることによって、無知故の先入観から自己を解放する (liberate) ことにある。資格を取得したり就職に役立つというような即効力のあるものではない。だが、より良く生きたいという人間の根元的な欲求に応えるものである。それは、専門の勉強をする上でも、仕事の問題を解決するときにも、人生の送り方を考える際にも基礎となる、生涯有効な宝物である。

### 5.1. 勉強する時間がないというのは本当か

注目すべきコメントとして、「自分で勉強したくても、カリキュラムがきついため時間がない」というものがあつた。たしかに工学部では実験が多いため、講義科目主体の学部にくらべると、同じ単位数を取得するにも授業時間が長くなる。「豊橋技術科学大学工学部教育課程及び履修方法等に関する規則」(1992. 2. 26制定) をみると、1単位の計算方法は、講義は15時間の授業、演習は30時間の授業、実験・実習・実技は45時間の授業をあてることとなっている<sup>4)</sup>。つまり、実験は講義の3倍も授業時間を要するわけである。

ただ、大学審議会 (1998. 10) には、1単位は授業と予習・復習を合計して45時間の学修を要すると書いてある。これに倣えば、豊橋技術科学大学では授業時間外の予習・復習時間を、次のように想定していることになる。週1コマあたり講義は3時間、演習は1.5時間、実験は0時間。このように、そもそも講義科目・演習科目は、自分で予習・復習をすることが前提となっているのである。これを履修要覧等に明示的に記載すべきであろう。

学生の様子をみていると、「カリキュラムがきつい」のではなく履修科目数が多すぎるのではないか。卒業研究を始める前に単位取得を終えてしまおうとしているらしい<sup>5)</sup>。しかも、単位を落としても安全なように多めに履修登録をしている。これでは自分で勉強することはおろか、評価に直結する課題をこなすだけで精一杯であろう。ふだん予習復習をしない<sup>6)</sup> において、期末試験の前に勉強するだけでは十分な学力はつかない。適正な数の科目に集中し、時間の余裕をもって学習したほうが良いだろう。

対策として、2つのシステムの導入を提案したい。1つは、大学審議会 (1998. 10) でも提案されている、履修科目登録単位数の上限を本学の状況に応じて設定 (いわゆるキャップ制) することである。いま1つは、成績表に不合格を記載することである。現行の制度では、期末試験を受けなかったり期末レポートを提出しなければ、成績表には何も記されない。だから、学生は必要以上の科目を履修して授業に出席し、注意が分散するのである。自分で決めた履修計画がきつく



て自分で勉強する時間がないのである。教師の立場から言っても、受講者名簿にある学生が長期欠席をしている場合、履修をやめたのかどうか把握できない不便がある。いつ出席しても良いように、配付資料を取り置いておかなければならないし、欠席を記録するなどの手間もかかる。グループ活動を行う授業では、活動の分担に支障をきたしてしまう。現行システムは、無計画・無責任・無配慮の学生を育てているように思える。

## 5. 2. 辞書ぐらい持参しよう

勉強する時間がないことが事実だとして、ならば授業時間に自分で調べてはどうだろう。参考図書を読むことまではできないが、携帯版国語辞典でも授業に出てきた言葉の意味を確認したり、同意語・反意語・関連語などを探検することができる。しかも、この授業のテーマは「日本の文字と表記」である。現代仮名遣い・歴史的仮名遣い、訓令式・ヘボン式、六書、音読み・訓読み、呉音・唐音・漢音、漢字制限、人名漢字、世界の文字政策、旧字体、国字、同字異音などを扱うことは、シラバスにも書いてある。配布プリントに示された用例を調べるだけでも、国語辞典、漢和辞典、英和辞典等が役に立つ。にもかかわらず辞書を持ってくる学生は非常に少ない。知らない漢字や言葉がまったくないとは思えない。わからない、うろ覚えだ、確認したい、AとBはどう違うのか、などと気にならないのだろうか。疑問をそのままにしないでほしい。対照的に受講者198名のうち留学生が6名いたが、彼らは電子辞書を引いて漢字や意味を確認していた。辞書のおかげか、この授業のコメントも誤字などない立派な日本語で書いていた。

電子辞書は印刷版辞書より高価であるが、国語・漢和・英和・和英・百科など数種類の辞書が搭載され、しかも200g程度と軽量であることが魅力である。さらに、印刷版辞書にはない独自の機能もある。第1に、複雑な漢字を大きな字で表示することができる。たとえば、「鬱」の左下の部分、「歳」と「戚」、「鳥」と「烏」、「邊」と「邊」の差異などが明確に見える。第2に、読みも部首もわからない漢字を調べたいときに、読める部品から検索することができる。たとえば、「爵」が読めず「つめ(爪)」という部首がわからなくても、「すん(寸)」から検索することができる。印刷版では総画数で調べるしかないが、これがなかなか難しい。まず、画数を間違わずに数えなければならない。これに成功しても17画の漢字は300字もあり、ここから「爵」を探し出すのは相当な集中力を要する。第3に、搭載してある辞書間を相互参照することができる。たとえば、国語辞典で「かき」の漢字表記が「牡蠣」であることがわかる。「蠣」の読み方や字源を知りたいときは、「蠣」にカーソルを合わせて漢和辞典を選ぶだけで良い。漢和辞典にモードを変えて、部首の「むし(虫)」から調べる必要はない。ちなみに音読みは「キ」ではなく「レイ」「ライ」である。「かき」から和英辞典に飛べば、“oyster”が出てくる。“shell oysters”「カキの殻をとる」という用例から“shell”に「殻をとる」という動詞があることがわかる。“oyster bed”「カキの養殖場」，“oyster culture”「カキ養殖」という表現も知ることができる。“bed”“culture”の一般的な意味「ベッド」「文化」とは少し違った意味であるが、“bed”“culture”に行ってみると語源との関係がよくわかる。このように、ネットサーフィンのごとく言葉の海で波乗りを楽しめるわけである。

第4に、調べた言葉が自動的に保存されるので、見直して復習することができる。この他にも音声出力、辞書の更新など、機能は拡張されつつある。

以上のように電子辞書は携帯性にも機能にもすぐれているため、今やパソコンのように学習必需品と考えてもよいだろう。授業時間だけでなく通学時間でも旅行中でも常に携帯し、辞書を引くことを習慣づけてほしい。

## 6. 自由を支えるのは責任

以上見てきたように、豊橋技術科学大学学生の学習態度や学習技能の問題には、1) 初中等教育で身につけているはずのもの、2) 大学の慣習によるもの、3) 大学教育・教養教育の趣旨にかかわるものがあった。

第1に分類されるものは、初中等教育に問題があったのかもしれないが、大学生になると何をしても自由だと解放感に満ちあふれての誤った行動だったかもしれない。大学でも一般社会でも初中等教育と同様のマナーが要求されることを、教えるべきであろう。また、第2・第3に分類されるものは、教師も自分自身にして「いつとはなく習得した」ような気がするもので、どのように指導したらよいのか戸惑う部分もある。が、大学進学率が高まり入学者が多様化しているため、自然に覚えてもらえばよいという態度では通用しなくなっていることを自覚しなければならないだろう。まずは、このような認識を共有することから豊橋技術科学大学の教育改革は始まる。

### 注

1) 豊橋技術科学大学は工学部だけの単科大学である。2003年度の学生定員は、1年次入学生80名、3年次編入学生300名である。

2) コメントは、他の学生の態度や技能について書いてもらうことは想定していなかった。授業の内容や方法について書いてもらうもので、その目的は2つあった。1) 授業を真剣に聞いてほしい、2) 次回の授業にフィードバックしたい、であった。筆者はこのコメントを重視しており、成績評価の30%を占めることをシラバスに示しておいた。

しかし、授業を重ねるうちに学習態度・学習技能の根深い問題に気づき、コメントにもそのような内容が見られたので本稿の分析に利用することとした。

3) 「～を初めて知った」というコメントの信頼性は、少々疑ってみる必要がある。というのは、書くことが見つからないときに手軽に書けるのが「～を初めて知った」「～を初めて聞いたので驚いた」というパターンだからである。授業内容のコメントにも「漢字の成り立ち(六書)を初めて知った」「漢字の音読みが数種類あるのは、中国の違う地域・時代の音が日本に伝わったからだ」と初めて聞いた」「音読みをカタカナで、訓読みを平かなで書く方法を初めて見た」などあった。これらは小中学校の国語の教科書に必ず採用されている事項である。習ったことを忘れていた学生もいるだろうが、覚えてい

## 大学生に習得してほしい学習態度・学習技能

ながら初めて知ったことにした確信犯も含まれるであろう。

- 4) 単位計算の授業時間は、50分を1時間としている。1コマは75分であり、単位計算では1.5時間となる。1学年は3学期に分かれ、各学期は10週からなる。したがって、週1コマの講義は10週で15時間1単位と計算される。
- 5) 文部省調査（1995）「学生の学習と生活に関する調査」にも同様の指摘があり、他大学でも似たような状況であることがわかる。
- 6) 大学審議会（前掲）によると1週間の学習時間は45時間を想定しているが、文部省調査（前掲）では自然科学系の実態は「授業への出席時間」が22.3時間、「その他の勉強時間」が7.9時間、合計30.2時間しかない。また、他大学の学生の授業評価でも、授業への出席は良いが予習・復習時間が非常に短いことが指摘されている。

豊橋技術科学大学学生生活委員会（2002）では、「1日平均何時間自習しますか」という質問に対して、学部生は30分未満が38.7%と最も多く、ついで30分～1時間未満が23.7%、1～2時間未満が20.5%、3時間以上が11.4%となっている。

## 参考文献

- 大学審議会（1998. 10. 26）『21世紀の大学像と今後の改革方策について—競争的環境の中で個性が輝く大学—（答申）』
- 豊橋技術科学大学（2003）『履修要覧』
- 豊橋技術科学大学学生生活委員会（2002）『平成13年度学生生活実態調査』
- 野田尚史・森口稔（2003）『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房